



医学部だより

第30号

2015.4.1



素晴らしい医療人の養成をめざして

医学部長 苛原 稔

今年も新入生を受け入れる季節が来ました。毎年繰り返して見る入学式やオリエンテーションでの初々しい風景ですが、徳島大学医学部に入学してくる学生の雰囲気は少しずつ変化しているようです。素晴らしい医療人になる大きな志を持って入学してくることに変わりはないものの、最近はやからは姿を消し、スマートな学生が増えています。成績は優秀で個人的な行動は活発ですが、自分の立ち位置の把握や他人との関連性に疎い学生が増えているように思います。高校生活では基本にご両親や高校の先生方のご指導の下に過ごしてきた学生が、大学入学と同時に急に大人の階段を上って自己責任で過さねばならなくなります。自由は多くなりますが、一方で責任も増えます。この過程で新しい生活に適応する必要がありますが、個人差があり、全ての学生が上手く適応するとは限りません。私たち教員はそのことを心に留めながら教育にあたりますが、学生自身あるいはご父兄の皆さんにも是非、このことに留意していただきたいと思います。

さて、我々のような医療系の学部では、学業成績だけでなくコミュニケーション能力や協調性も重要なファクターになります。多くの学生は最終的に国家試験を経て、医師や管理栄養士、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師などの資格を取り、臨床現場で活躍するわけです。人を対象とする職業に就く以上、学業成績と協調性の鍛錬が必要です。教員である我々は社会から期待される医療人を養成する義務があり、医学部の全力を尽くして教育にあたります。また医学部の使命には、医学発展のために研究をする研究者の養成も重要です。徳島大学医学部では、医学部の途中で大学院に進学する MD-Ph.D コースを設けたり、海外短期研修としてハノーバー医科大学、テキサス大学、モンゴル健康科学大学、ソウル国立大学などに交換学生として留学させたりして、研究や海外にチャレンジし、将来的に日本の医療の発展を担える人材の養成にも力点を置いています。このようなキャリア形成の知識はなかなか得にくいので、昨年からは、それぞれの学科にそれぞれのコースを設定して、キャリア

形成の参考になるようにしています。

学生にとってどの大学のどの学部学科を選ぶかは、人生の選択の中でも最も大きな分岐点のひとつです。学部学科で将来の職業が決まることが多いし、生き方を決める師に出会う機会も大学時代が多いように思います。一方で、逆にどのような学生を入学させるかも、大学にとって重大な選択です。入学する学生が大学の将来を決めると言っても過言ではありません。その意味で、今年も素晴らしい新入生が入学してくれたと信じています。

もうひとつ、教育や研究を充実させ医学部を活性化するためには、有能な教授に就任してもらう必要があります。昨年度から実に12名の新しい教授を迎えることができました。医学科では、鶴尾吉宏教授（顕微解剖学）、米村重信教授（細胞生物学）、常山幸一教授（疾患病理学）、安倍正博教授（血液・内分泌代謝内科学）、田中克哉教授（麻酔・疼痛治療医学）、橋本一郎教授（形成外科学）、石澤啓介教授（臨床薬理学）、医科栄養学科では阪上浩教授（代謝栄養学）、竹谷豊教授（臨床食管理学）、保健学科ではロクシン教授（看護技術学）、岩本里織教授（地域看護学）、森田明典教授（医用理工学）です。いずれも教育研究に実力を兼ね備えた教授達です。是非、医学部の発展に寄与していただきたいと思います。これで3学科とも欠員なしになり、フルパワーになりました。私自身も医学部長として再選されましたので、期待に添えるように医学部の発展に邁進したいと思います。

最後に、本年度から教員が所属する「大学院ヘルスバイオサイエンス研究部」の名称を、「大学院医歯薬学研究部」に変えることにしました。ヘルスバイオサイエンスとして十数年になりますが、できるだけ解りやすい名称をとの各方面からの希望があり、変更させていただくことになりました。それに合わせて若干の分野で名称を変更しています。これからもどうぞご支援ください。

目次

CONTENTS

医学部長挨拶	1	蔵本祭	8
新入生のみなさんへ	2	数字で見る医学部	9
先輩から医学部紹介	4	新任教職員あいさつ	10
学友会活動	5	新任准教授紹介	12
医学部行事予定	5	退職者ご挨拶	12
トリブバン大学教員研修報告	6	受賞者紹介(教員)	13
総合研究棟(医学系)の完成について	6	医学部サッカー部 全日本チャンピオンに!	13
徳島医学会報告	7	受賞者紹介(学生)	14
第61回徳島大学解剖体慰霊祭	7		



新入生の皆様へ

医学科長 安友康二

この度はご入学おめでとうございます。徳島大学医学部医学科は60年を超える歴史を持ち、多くの卒業生の方が国内外で活躍されています。皆様もその歴史を引き継ぐ一員として、学生時代に勉学に励んでください。医学部の建物や施設はこの数年で一新され、最新の設備の中で医学の基礎を学ぶ環境が整っています。また、研究を行うための最先端の機器類も配備されており、学部初期から医学研究に携わることも可能です。それらを最大限に生かしてください。

最近の医療を取り巻く現状は決して容易であるとはいえませ

ん。また、医療の進歩に伴って学ぶべき事の量は加速的に増加し、学ぶ内容の質も10年前と比較しても随分変化してきています。しかし、生命を預かる医療人の現状はいつの時代も厳しいものであり、むしろ厳しい環境であることおよび学び続けなくてはならないということは当然のことであるといえます。皆様は、大学に入学したばかりですので将来どのような道に進むかということは、現段階では具体的に想像しがたいと思います。しかし、将来を見据えながら学生時代に何を学ぶべきかということをご自身で真剣に考え、そしてそれを実践するように心がけながら学生時代を過ごすことが大切です。楽しくそして実り多い学生生活をおくってください。



新入生の皆様へ

医科栄養学科長 二川 健

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。私が大学に入学したのは、1981年（昭和56年）ですので、皆さんとは比べるべくもないほど大昔の出来事ですが、「大学での講義についていけるだろうか?」「友達ができるだろうか?」といった入学当初の期待と不安で胸が張り裂けるような気持ちは同じでないかと思います。しかし、全く心配ございません。皆さんの大半の方とは、一度面接でお目にかかっております。どの方も素直で成績も優秀な方々ばかりでしたので（だから入学できたのですから）、自信をもって学生生活をスタートしてください。医科栄養学科は、医学を基盤とした栄養学を標榜して医学に強い管理栄養士の養成を目的としています。皆さんのための高度な知識の学舎（まなびや）とな

るとともに、社会人としての人格を形成する最後の修練の場を提供しています。皆さんは、医学や栄養学の知識の習得だけでなく、医療人としての人間力をしっかり磨いてください。ただし、あまり力まずに学生生活を楽しむということも忘れずにいてください。かく言う私も、徳島大学医学部を卒業したというより、徳島大学剣道部を卒業したというほど、クラブ活動に熱中し学生時代の成績は芳しくなかったのです。でも、クラブ活動で磨いたコミュニケーション能力が今とても役に立っていると感じます。私は、皆さんの1年目の専門科目の一つ「人体構造機能学」の講義を担当しております。最初の講義は、毎年自己紹介をしてもらうことにしております。皆さんの大学生活の夢や希望を聞けることをとても楽しみにしております。



ようこそ！徳島大学保健学科へ

保健学科長 近藤和也

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは保健学科14期生になります。将来の職業として、看護師、保健師、助産師、養護教諭、診療放射線技師、臨床検査技師を希望されたと思います。医療は日々進歩していますので、皆さんが習得すべき知識、技術、知恵は多くなっています。まずは、大学で“生涯学習する習慣”をつけてください。私たちの大学は、四国地区の国立大学で唯一、学部から大学院博士課程まで一貫した教育体制が整っています。さらに、蔵本キャンパスには、医学科、医科栄養学科、歯学部、薬学部が集まり、多様な医療人を育成する“総合大学”となっており、学部時代から他分野の学生と交流し、“チーム医療”の基礎を作ってください。学部卒業後は、大学院博士前期（修

士）課程（2年）と大学院博士後期課程（3年）が設置され、専門看護師、助産師、養護教諭（専修免許）、放射線治療専門診療放射線技師、医学物理士、超音波検査技師等の高度専門医療人を育成する最高の環境があります。昨年9月よりロクシン教授（前フロリダ・アトランティック大学の教授）が看護技術学の教授として着任され、英語と日本語による看護学の授業や International Nursing Basic Course を立ち上げ、国際的視野から保健医療を担うことができる医療人を育成しています。海外で看護師として働きたい学生や海外留学を希望する学生を募集しています。フロリダ・アトランティック大学（米国）やヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学（フィンランド）と学術交流し、短期留学を行っています。これからの大学生活は、皆さんの“夢”を大きく育てる楽しい期間です。精一杯楽しんでください。

***** 新入生の皆さんへ *****



医学科4年次 山崎 藍

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。きっと、これから始まる新しい生活に大きな期待と不安を抱いていることと思います。新しい生活でまずしておいた方がよいと思うことは、新しい友人や先輩との関係づくりです。大学で

の先輩や仲間は、どうしていいかわからないことがあった時など特に、相談してアドバイスをもらったり支えになったりこれから一生を通じて貴重なものになると思います。医学部での勉強は楽ではありません。授業はスライドを見ながら先生の説明を聞く形式が多く、高校までと少し違うので最初は面食らうと思います。どの科目もそれぞれ分量も多くノートをまとめるのも大変ですが、先輩のアドバイスを参考にし、友人と話し合ったり協力したりしながら早く自分なりの勉強法を確立してください。レポートや試験やいろいろな行事があり、医学科での六年間はやらなければいけないことが多くて忙しいのですが、私自身も先生方からやりたいことが思いっきりできるのは学生の間だけだというアドバイスをよく頂きます。徳島大学では部活動、留学、Student Lab などいろいろな機会が学生に与えられていると思います。メリハリをつけて生活すれば皆さんならきっと大丈夫ですから、時間が無いかもしれないという興味があることを諦めずに挑戦して自分の好きなことを見つけて充実した大学生活にして欲しいと思います。



栄養学科4年次 相田 隆道

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。徳島大学での生活に期待と不安が入り混じっていることでしょう。大学では様々なことに挑戦してみてください。挑戦することで初めて得られるものがきっとあるはず。また、挑戦の過程で部活動などの組織に属することも多いと思います。組織に属することで、その一員としての役割を果たし、組織に貢献できたときの喜びを味わえます。さらにこれらの活動を通して、たくさんの仲間と出会うことができます。このように共通の目的や目標を持ち、共に頑張り、時には助け合えることができる仲間を見つけることは、大学生活で何よりも大切なことであると思います。

さて、医科栄養学科は約50年の歴史を持つ伝統ある学科です。この学科の良さは、様々な行事や実習を通してかけがえのない経験ができ、同級生はもちろん、先輩や後輩とも深く関わることができ、共に頑張ることができる場所であると思います。医科栄養学科が最も力を入れている行事は阿波踊りです。医科栄養学科では、学科全体で「栄養学連」というチームを作り、1年生から先生方まで一緒に踊っています。阿波踊りに参加することで先輩方と関わることができるだけでなく、感動を得ることができます。こうした伝統が途切れることなく、先輩から後輩へと引き継がれているのも医科栄養学科の良さであると思います。新入生のみなさんもおこの良さを知り、後輩達へと繋いでください！



保健学科看護学専攻4年次 片山 舞子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活に多くの期待と不安を抱いていることと思います。大学では、高校の時と比べるとテストの範囲も広く、科目も多いです。

また、看護学専攻では1年生から専門科目を学び、病院実習にも行きます。みなさんの想像以上にハードな日々かもしれません。

しかし、そんな中でも様々なことに挑戦し、多くの経験をしてほしいです。部活に打ち込んだり、友達と旅行したり、他にも大学生の今だからこそできることがたくさんあります。大学生活は、長いようであっという間です。限られた時間を有効に使い、充実した4年間にして下さい。みなさんの大学生活がより良いものになることを祈っています。



保健学科放射線技術科学専攻4年次 氏田 将平

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。将来の夢と希望を抱いて始まる大学での新生活ですが、その一方で不安なこともあるかもしれませんね。本専攻では、講義と実習を通して、診療放射線技師になるために必要な知識と技術を基本から身に付けることが出来ます。また、先生方や学科の友人との交流、臨床実習などを通じて、豊かな人間性を育むことも大学生活の魅力の一つです。皆さんが将来、立派な診療放射線技師として社会に貢献するために、この4年間で充実したものになるよう願っています。

また、先生方や学科の友人との交流、臨床実習などを通じて、豊かな人間性を育むことも大学生活の魅力の一つです。皆さんが将来、立派な診療放射線技師として社会に貢献するために、この4年間で充実したものになるよう願っています。



保健学科検査技術科学専攻4年次 田村 元幹

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大変だった受験勉強が終わり、いよいよ大学生活の始まりです。大学生活に期待をしている一方で、友達のことや親元を離れ一人暮らしをすること

などに不安を感じている人もいるのではないのでしょうか。検査技術科学専攻では、1年次で一般教養、2年次以降は専門科目を主に勉強します。1年次は比較的時間がありますが、学年が上がるごとに講義や実習が増えて忙しくなります。大学は高校よりも自由な時間がたくさんあります。いろんな人と交流したり、サークル活動やバイトをしたりなど、今しかできないことを思う存分にやっておきましょう。しかし、当然のことながら大学は勉強をするところなので、勉強と私生活をうまく両立して楽しい大学生活を送って行ってください。



先輩から医学部紹介

新入生のみなさんご入学おめでとうございます

講義について

医学科4年次 佐藤浩彦

大学1年生の講義は大きく2つに分けられ、自分で履修する講義を選べる教養科目と、各学科で決められている専門科目があります。1年生時のほとんどが教養科目で、主に常三島キャンパスで受講し、週に1～2日は蔵本キャンパスで専門科目を受講します。

教養科目は自分で講義を選べるのが特徴で、自分で好きなように時間割を組むことができます。講義は「歴史と文化」「人間と生命」「生活と社会」「自然と技術」の4つの分野があり、進級に必要な単位数は履修の手引をよく読んで確認しておく必要があります。講義の目的、内容をシラバスで確認し、自分の興味のある講義を受講しましょう。教養科目では政治学、経済学、心理学、考古学、文化人類学など多様な学問を学ぶことができます。先生方はわかりやすく丁寧に講義してくれますので、全く知識がなくても楽しく学習できます。専門科目では学べない分野を学習して得られた幅広い知識、教養は将来必ず役に立つものだと思います。積極的に受講して自己の見聞を広めましょう。

1年生時は自分で時間割が組めるため講義が早く終わる日もありますので、その時間を有効に活用してください。医学部では Student Lab という制度があり、自らの疑問、好奇心をもとに実験を行うことで研究心、研究力を高めることができます。皆さんぜひ積極的に参加してみてください。

学生中にしかできない様々なことに挑戦し、将来の目標に向かって充実した学生生活を送れることを願います。



部活動・サークル活動について

栄養学科4年次 進藤奈都美

部活・サークル活動について紹介します。大学に入学して、思い浮かべることと言えば、「部活やサークル活動」ではないでしょうか。

私は新入生のみなさんが、部活やサークルの何かしらに入ることをおすすめします。大学生活は、部活やサークルに入ると入らないでは大きく変わってきます。部活やサークルに入ると、他学科の人と知り合うきっかけになり、交友関係が大きく広がります。同級生だけでなく、先輩や後輩とも仲良くなれます。大学で友人関係を作る手段の1つが部活・サークル活動です。大学では、高校や中学の部活と異なり、部やサークルの運営を自分達でしなくてはならないので、自分自



身のスキルアップにもつながるのではないのでしょうか。

新入生のみなさんは、どのようにして部活やサークルを選んだらよいか分からないと思います。まずは部活・サークルの見学へ行ってみてください。いろいろな部活・サークルの見学へ行った方が、選択肢が広がり、得だと思えます。

そこで知り合えた人達と、みんなで遊びに行ったり、部活外で会ったりすることで、大学生活が充実したものとなります。部活の枠を越えて、一生の友人になると私は思います。

新入生のみなさんも、ぜひ部活やサークルに入って、充実した学校生活を送りましょう。

まずは見学に、気軽に足を運んでみてください。

大学生協について

保健学科4年次 松下映美

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。みなさんが一度は必ずお世話になる大学生協について、少し紹介させていただきます。

蔵本キャンパスには生協食堂の「さくら」、カフェテリアの「くらら」、本や旅行の申し込みなどを行う「しょこら」、コンビニのような「らくら」があります。

「さくら」はお昼休みになると列になるくらい蔵本キャンパス中のたくさんの人が利用します。毎月フェアが行われていて、さまざまなテーマでその時期にしか食べられないものもあるので毎日利用してもいろいろなメニューを食べることができます。また、たくさんの人がいるので違う学科の友達や先輩後輩に会える楽しみもあります。

「くらら」もお昼時はお弁当やどんぶりを買う行列ができますが、講義の合間などは空いていることも多いのでちょっと休憩したり友達と話したりできます。また、「くらら」と「らくら」には月に

1回ずつアイスの日とシュークリームの日が設けられていて、割引でアイスやシュークリーム、クレープなどを買うことができます。気づけば過ぎていたりするので要チェックです！

「しょこら」では授業で取り扱う教科書、参考書だけでなく普通の雑誌や本、文房具も置いています。また、運転免許の申し込みが安く行えたり、海外・国内旅行の手配ができたり、帰省する際の高速バスの申し込みなどもここでできます。ざっと紹介しましたが、大学生協はほかにも便利などころがたくさんあると思います。これらの大学生協を上手に役立てて、皆さんの大学生活がより良いものになるように願っています。



学 友 会 活 動

● 運動部

	クラブ名	部 長
1	硬式野球部	北川 哲也
2	ソフトテニス部	森 健治
3	ラグビー部	田中 克哉
4	卓球部	香美 祥二
5	柔道部	永廣 信治
6	弓道部	丹黒 章
7	剣道部	久保 宣明
8	準硬式野球部	島田 光生
9	合気道部	上野 淳二
10	水泳部	松香 芳三

● 文化部

	クラブ名	部 長
11	硬式庭球部	福井 清
12	バドミントン部	土井 俊夫
13	サッカー部	高橋 章
14	バレーボール部	岡久 稔也
15	バスケットボール部	中村 教泰
16	空手道部	丹黒 章
17	陸上競技部	福井 清
18	ゴルフ部	苛原 稔
19	水上競技部	二川 健

	クラブ名	部 長
1	軽音楽部	橋本 一郎
2	外国語研究会	福井 清
3	栄養学研究会	宮本 賢一
4	茶道部	羽地 達次
5	室内楽同好会	赤池 雅史
6	地域医療研究会	谷 憲治
7	TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	赤池 雅史
8	ジャグリングサークル	渡辺 浩良
9	先端医療研究会	佐田 政隆

※入部等の問い合わせについては、医学部学務課(学生指導担当：☎088-633-7030)へ連絡してください。

医学部行事予定 (平成27年4月～平成27年9月)

- 4月3日(金)～10日(金) (4、5日を除く)
医学部新入生学科別オリエンテーション・
大学入門講座
医学科、医科栄養学科、保健学科
- 4月3日(金) 学生定期健康診断
医学科・医科栄養学科1年次
- 4月6日(月) 徳島大学入学式、医学部新入生オリエンテーション (13:30～大塚講堂)
- 4月7日(火) 学生定期健康診断 保健学科1年次
- 4月9日(木) 保健学科 新入生授業開始



- 4月10日(金) 医科栄養学科 新入生授業開始
- 4月11日(土) 医学部大学入門講座・新入生研修(於:大塚講堂)
- 4月13日(月) 医学科 新入生授業開始
- 4月23日(木)～24日(金)、5月7日(木)、11日(月)、12日(火)
学生定期健康診断
医学科・医科栄養学科・保健学科2年次以上
- 8月6日(木)～7日(金)
徳島大学オープンキャンパス(学部説明会)
医学科、医科栄養学科、保健学科
- 8月8日(土)～ 西日本医科学生総合体育大会

トリブバン大学教員研修報告

胸部・内分泌・腫瘍外科 吉田卓弘

徳島大学とネパール連邦民主共和国のトリブバン大学との間で学部間協定が締結され、トリブバン大学医学部生の研修に先立ち指導教官の訪問がありました。われわれの教室では、2014年9月26日より3週間、胸部外科教授のサヤミ先生をお迎えしました。同大学病院はネパールで最も人口の増加が著しいカトマンズにあります。ここは、国内最多の手術件数を誇っており、ご多忙の中、国の長期休日に合わせて来徳されました。サヤミ先生は東京医科大学第一外科早田教授に師事し学位を取得されており、日本にも大変詳しい方ですが、今回の来日は公衆電話がないことに驚かれるほど、久しぶりだったようでした。滞在中は、徳島大学病院だけでなく徳島赤十字病院でも精力的に手術見学をされました。連日、まさに朝から晩まで手術見学される姿勢に頭の下がる思いでした。特に、がんのリンパ節郭清術を優先して見学され、手術の質を高く評価していただきま



交流会

した。また、医局に到着後、最初に尋ねられたことは、大学内の図書館の利用方法でした。ネパールでも電子機器は進化しており、インターネットも普及しているとのことでしたが、大学内で主要な文献が閲覧できることを大変喜ばれており、あらためてわれわれが恵ま



丹黒教授から研修証書を授与

れた環境にいることに気付かせて頂く機会となりました。帰国直前の10月14日には、国際交流特別講演会が卒後臨床研修センター主催で開催されました。安井夏生病院長にもご出席いただき、医学生だけでなく様々な職種の方々に参加した講演会となりました。サヤミ先生は、写真を交えながらのネパールやトリブバン大学病院での医療事情やヨード欠乏による甲状腺腫などのネパール特有の疾患などについて丁寧に英語で講演してくださいました。さらにトリブバン大学病院の創設から活動が続けられてきた眼科学准教授の内藤毅先生と豊富な留学経験のある臨床神経科学講師の野寺裕之先生からの普段聞くことのできないご講演に参加者は熱心に耳を傾けていたようでした。最後になりますが、学部間協定によりこのような大変貴重な国際交流の場を持つことができたことに心より感謝申し上げます。国際交流における徳島大学医学部の役割を自覚し、われわれの医療の質をさらに向上させていきたいと思っております。

総合研究棟(医学系)の完成について

医学部総務課長 川瀬 勲

平成26年7月に待望久しかった総合研究棟(医学系)が竣工し、9月12日(金)香川学長を始め、関係者が出席して、総合研究棟新営工事完成記念式典を開催しました。

総合研究棟は、医学科入学生定員増加等による狭隘化、保健学科の講義室不足などに対応するため、総工費約3.6億円、地上4階建て、延べ面積1,343㎡の建物として医学部青藍講堂と臨床講堂の間に建設されました。

1階部分は、玄関ホールおよびクリニカルアナトミーラボとなっています。この施設は大学病院の管理施設で、先進的な医療技術の開発及び先端医療・先進医学の研究、高度な手術方法の開発とその習得、新たな検査手技の開発、並びに疾患・手術に即した局所解剖の教育・研究を目的に、ご遺体を用いた医師、歯科医師の修練施設として、サージカルトレーニングに対応できる設備が整備されています。

2階は、スキルスラボで、基本的な医療技術・技能から高度な医療技術・技能までを習得するためのシミュレーショントレーニング施設となっています。OSCEやチュートリアル教育等の少人数教育に使用できるよう、可動式の間仕切りで計8部屋に分割可能となっており、学部学生、大学院生をはじめ、



医療に携わる学内・学外すべての方の総合的な医療人教育に活用されます。また、2階は渡り廊下で藤井節郎記念医科学センターと連結しています。

3階は、主として医学部保健学科1年生及び4年生が授業で使用している小ホールが3室、学生自習室が1室あります。講義時間以外は臨地・臨床実習などの調べものやミーティングに利用されています。

4階は、座席数153席の大ホールで、主として医学部医学科3年生の授業に使用されています。講義時間以外も自習室として活用されています。また、定期試験や入学試験で使用されま



4階大ホール

徳島医学会報告

■ 第250回徳島医学会学術集会(平成26年度冬期): 運営委員を代表して 統合生理学分野 勢井宏義

2015年2月1日は晴天だがとても寒い一日となった。強い冬型の気圧配置で、北日本では大荒れの天気だったようだ。また、早朝に、拘束されていた日本人についての悲しいニュースが流れ、重苦しい気持ちで一日をスタートさせたのは決して私だけではなかったのではないだろうか。

第250回徳島医学会学術集会は放射線科学分野と統合生理学分野、県医師会プログラム委員会からなる運営委員会によって、大塚講堂で開催された。教授就任記念講演、ポスターセッション、医学会賞・若手奨励賞の授賞式と記念講演、そして、公開シンポジウムと、これまで通りのスケジュールで進められた。

教授就任記念講演は、運動機能外科学分野の西良浩一教授と、疾患治療栄養学分野の濱田康弘教授が担当された。西良教授のご講演は、患者としてたくさんのトップアスリートが登場する、大変エキサイティングな内容であった。20代はバイタリティ(vitality)、30代はスペシャリティ(specialty)、40代はオリジナリティ(originality)、そして50代はパーソナリティ(personality)、つまりVSOP、という座右の銘は、印象に残った。一方、濱田教授のご講演は、栄養学科が医科栄養学科に改組になったことを受け、臨床現場における栄養学の重要性を新たな視点から明確に提示された。特に、除脂肪体重を評価することの重要性や、がんに伴う体重減少のうち、がん以外の要因の意外な大きさが印象に残っている。

ポスターセッションでは、A会場を一般演題、B会場を研修医(若手奨励賞応募)演題として、40演題の発表とそれぞれ活発な討論がなされた。研修医の真剣なまなざしに、彼らの現場での日々を想った。

徳島医学会賞(前回受賞)については、大学側は生体栄養学分野の春名真里江先生、医師会側は坂東友子先生が講演された。春名先生は、筋萎縮とミトコンドリア異常との関連性についての内容で、今後が期待される新進気鋭の研究者である。坂東先生は、県医師会のメンバーとして、積極的に取り組んでおられる女性医師の支援事業についての内容であった。

この3月、県から6年間奨学金をもらって卒後地域医療を担



う、いわゆる「地域枠」の第1期生が卒業する。本集会在250回という節目の回であることも合わせて記念し、今回の公開シンポジウムは、「徳島県の医療と教育:その現在と未来」と題して、大学病院を含む県内主要総合病院の院長に集まっていた。人口の減少、高齢化、医師の偏在など、今後、徳島県の医療、そして初期研修を含めた医学教育はどうあるべきなのか、各院長から、とても熱のこもった強いメッセージが続いた。徳島の医療のこれからは、決して暗い課題ばかりではないと確信できるシンポジウムだった。今後、徳島医学会が大学病院と県内各病院との連携の場として役立てられることを期待している。

今回のシンポジウムも公開であったが、一般の方よりも医学生に聴いてほしい内容であったと思う。運営委員会は、医学科1年から6年まですべての学生に前もって案内メールを直接配信するなど、宣伝に努めた。ところが、当日、学生の顔はほとんど見かけなかった。研究しないかと誘えば、自分は臨床医になりたいから、といい、臨床医になりたい学生にとって外せないテーマ・内容であるはずのシンポジウムに誘っても来ない。「君たちはいったい何がしたいのか？」そう医学生に問いかけた。

最後に、第34回徳島医学会賞および第13回若手奨励賞の選考結果発表が行われ、大きなトラブルもなく無事閉会となった。徳島県医師会、徳島医学会事務局、ご参加・ご協力いただいた関係各位の皆様にご心より深謝申し上げます。

第61回徳島大学解剖体慰霊祭



事務部医学部学務課

平成26年10月29日(水)15時から徳島大学大塚講堂において、第61回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者540人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体してくださった方々の亡き御霊6161柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により献体に対する世間の理解が、ますます深まってきております。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。

蔵 本 祭

Take your Crown

第30回蔵本祭実行委員長 医学科5年次 庄野隆志

第30回徳島大学蔵本祭実行委員長を務めさせていただきました庄野隆志です。今年度も、学術講演などを含め計5日間にわたって様々なイベントを開催することができました。今回の蔵本祭のテーマは、「Take your Crown」としてやってまいりました。ひとりひとり内容は違えど、成功や思い出などそれぞれの宝物になるようなものを見つけてほしいという思いを込めて



います。また今年度は30回目という節目でもあり、今までにない蔵本祭をつくっていこうと、たくさんの方と共に奮闘してまいりました。

蔵本祭当日は天候が心配されましたが、大きな問題もなく何とか全てのイベントを無事終えることができました。今回は、徳島市役所の方との合同企画であるフラッシュモブを行いました。徳島市のゆるキャラ「トクシー」と一緒に突然阿波踊りをするというもので、打ち合わせを何度もしたかきもあり大成功に終わりました。この蔵本祭が、徳島市のアピールにも貢献できたのではないかと思います。蔵本祭に携わってみて、大学関係者の方をはじめ商店街の皆様やメディアの方々などたくさんの人々に支えられて、蔵本祭が成り立っているということを学びました。来年度は直接関わることはないかと思いますが、第31回蔵本祭の成功をお祈りいたします。

最後になりましたが、第30回徳島大学蔵本祭開催にあたりご尽力くださいました関係者の皆様方にこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

栄養学展を終えて

第30回蔵本祭栄養学展委員長 栄養学科4年次 相田隆道

毎年、蔵本祭では医科栄養学科2、3年の中で栄養学委員を集め、栄養学展を運営しています。栄養学展では、来展者に無料でテーマに沿った献立を提供・資料の展示を行っています。栄養学展は学外の方にも医科栄養学科を知っていただく数少ない機会です、学科としても力を入れているイベントの1つです。

さて、2014年の栄養学展は「プロバイオティクス」をテーマとし、腸内環境を整える効果が期待される食材をたくさん使った「プロバイオティクスに着目した免疫力 up お弁当」を提供しました。今年はお弁当形式で提供するという新しいスタイルにも挑戦させていただきました。

栄養学展当日は、多数の皆様にご来場いただき、アンケート調査を通して貴重なご意見を頂くことができました。毎年栄養学展を楽しみにしてくださっている方、具体的なアドバイスを下さる地域の方々、他大学で栄養学を学んでいる学生などアンケー

トを介して、たくさんの方が医科栄養学科に期待し、そして温かく見守ってくださっているということを改めて知りました。それと同時にその期待に応えられるように、今回の意見を次回以降に反映させていかなければならないと感じました。



僕自身、今回の栄養学展は委員のみんなや実践栄養学の先生方にとっても感謝しています。献立検討から当日の調理まで中心となって動いてくれた3年生、協力的な2年生、そして適切なアドバイスをくださった先生方…。本当にありがとうございました！

模擬病院を終えて

第30回蔵本祭模擬病院委員長 保健学科看護学専攻3年次 上野雄大

第30回蔵本祭の1、2日目に行われた模擬病院企画では、延べ534名の方が来訪し、大盛況となりました。恒例企画である手浴はもちろん、身体測定・妊婦体験といった他の企画も大好評をいただきました。加えて、今回はネスレ主催のカフェネスカフェ学園祭プロジェクトを実施することとなり、無償でコーヒー・菓子類を提供するという新たな試みを行い、これも来訪者の方々には大変高い評価をいただきました。受付でのアンケートでは約100名の方が回答され、良かった点



や改善すべき点を数多く知ることができました。

しかし、この成功は私たち看護学生のみでは到底なしえることはできませんでした。この企画も当初は、何もかも自分たちでやろうと誰にも報告・連絡・相談をしないままにいました。しかしその後、企画に関して生じた様々な問題の解決は未熟な私たちではあたわず、先生方や関係機関の方々の協力が不可欠であることを痛感しました。結果として、看護学生や教員、他学科の学生などの関係者・関係機関が連携・協働することができたことが、この成功の重大な要因であると思います。そしてこの連携・協働の考えの意味するところは、近年話題となっているチーム医療にも繋がる、将来の医療・保健・福祉の発展に必要な極めて重要なものであると確信しています。

最後に、この度ご協力をいただいた皆様方には深く御礼申し上げますとともに、この徳島大学の良き伝統が後輩たちに受け継がれることを願っております。ありがとうございました。

数字で見る医学部

～平成27年3月卒業者の進路状況～

H27.2現在

医 学 科	
進 路 先	合計
徳島大学病院	18
徳島赤十字病院	9
徳島県立中央病院	9
鳴門病院	5
徳島市民病院	3
愛媛県立中央病院	3
岡山赤十字病院	2
藤枝市立総合病院	2
兵庫県立加古川医療センター	2
日本赤十字社 和歌山医療センター	2
神鋼病院	2
宮崎県立宮崎病院	1
新行橋病院	1
呉医療センター	1
加古川西市民病院	1
川崎病院	1
近畿中央病院	1
神戸市立医療センター西市民病院	1
神戸掖済会病院	1
西宮市立中央病院	1
総合病院 国保旭中央病院	1
島田市民病院	1
東大宮総合病院	1
社会医療法人 近森会 近森病院	1
京都桂病院	1
第二岡本総合病院	1
香川県立中央病院	1
愛仁会 高槻病院	1
社会医療法人 愛仁会 千船病院	1
高槻赤十字病院	1
阪南中央病院	1
淀川キリスト教病院	1
一宮市立市民病院	1
JCHO 神戸中央病院	1
麻植協同病院	1
尼崎医療生協病院	1
神戸赤十字病院	1
兵庫県立尼崎病院	1
兵庫県立淡路医療センター	1
兵庫県立西宮病院	1
明和病院	1
市立奈良病院	1
東京大学医学部附属病院	1
亀田総合病院	1
横浜市立大学附属市民総合医療センター	1
横浜市立大学附属病院	1
岡山大学病院	1
大手前病院	1
公益財団法人 田附興風会医学研究所 北野病院	1
公立学校共済組合近畿中央病院	1
土庫病院	1
合 計	97

栄 養 学 科	
進 路 先	合計
サイトサポート・インスティテュート株式会社	1
株式会社ホクト	1
ヤマク食品	1

伊藤園	1
久原本家グループ	1
株式会社パパベル	1
シダックス株式会社	1
株式会社ブレひまわり	1
香川県職員	1
榎なかた	1
三豊総合病院	1
株式会社新日本科学臨床薬理研究所	1
今治第一病院	1
東京都職員 (栄養士)	1
独立行政法人国立病院機構(東海北陸グループ)	1
徳島県職員 (学校栄養職員)	1
関西福祉科学大学健康福祉部福祉栄養学科	1
社会医療法人石川記念会 HITO 病院	1
医療法人有誠会 手束病院	1
医療法人社団光風会 三光病院	1
小 計	20
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院栄養生命科学教育部	22
徳島大学大学院医科学教育部	1
上越教育大学大学院学校教育研究科	1
小 計	24
未定	4
合 計	48

保健学科：看護学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	9
徳島赤十字病院	4
大阪大学医学部附属病院	4
大阪市立大学医学部附属病院	3
神戸大学医学部附属病院	2
香川県立病院	2
三田市民病院	2
九段坂病院	2
愛媛大学医学部附属病院	1
東京大学医学部附属病院	1
熊本大学医学部附属病院	1
鳥取大学医学部附属病院	1
金沢大学附属病院	1
九州大学病院	1
滋賀医科大学医学部附属病院	1
兵庫医科大学病院	1
東京歯科大学 市川総合病院	1
徳島赤十字ひのみね総合療育支援センター	1
姫路赤十字病院	1
富山赤十字病院	1
板橋中央総合病院	1
倉敷中央病院	1
水島協同病院	1
三井記念病院	1
枚方公済病院	1
徳島県	4
長崎県	1
兵庫県	1
広島県	1
愛媛県	1
鳴門市	1
小 計	54

大 学 院 進 学	
進 路 先	合計
徳島大学大学院保健科学教育部	12
徳島文理大学助産学専攻科	2
和歌山県立医科大学助産学専攻科	1
小 計	15
未定	1
合 計	70

保健学科：放射線技術科学専攻	
進 路 先	合計
広島市立病院機構	2
水の都記念病院	2
徳島大学病院	1
鳥取大学医学部附属病院	1
名古屋大学医学部附属病院	1
関西医科大学附属病院	1
兵庫医科大学病院	1
川崎医科大学病院	1
宮崎県立宮崎病院	1
徳島県立中央病院	1
徳山中央病院	1
徳島市民病院	1
広島県高精度放射線治療センター(仮称)	1
徳島赤十字病院	1
高松赤十字病院	1
きたじま田岡病院	1
麻生飯塚病院	1
キナシ大林病院	1
倉敷成人病センター	1
岡山済生会病院	1
近森病院	1
兵庫県	2
愛媛県	1
小 計	26
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院保健科学教育部	4
大阪大学大学院医学系研究科	1
小 計	5
未定	6
合 計	37

保健学科：検査技術科学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	3
徳島赤十字病院	2
川島病院	2
高知大学医学部附属病院	1
高砂市民病院	1
日本赤十字社和歌山医療センター	1
府中病院	1
博愛記念病院	1
徳島県	1
小 計	13
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院保健科学教育部	2
徳島大学大学院医科学教育部	1
小 計	3
未定	1
合 計	17

新任教職員あいさつ



I am Prof. Dr. Rozzano C. Locsin, Professor of Nursing, Department of Nursing Science and Art at Tokushima University Institute of Biomedical Sciences. My PhD in Nursing degree was earned from the University of the Philippines. My program of research is on “life-transitions in human health, human illness, and well-being.” My expertise in caring science, technological advances, and nursing incited the development of the middle-range theory of *Technological Competency as Caring in Nursing* in 2005. A Philippine edition was

Rozzano C. Locsin, PhD, FAAN.
Professor of Nursing

published in 2007, and a Japanese language version in 2009. A second edition was then published in 2013. My three other books focus on caring, technology, and nursing. In retiring in 2014, I received the Professor Emeritus rank from Florida Atlantic University. As Professor of Nursing at Tokushima University Institute of Health Biosciences, my goals include engaging in internationalization activities of faculty and students, and collaborative, interdisciplinary research with colleagues in nursing and the health sciences.



平成26年10月1日付けで麻酔・疼痛治療医学分野教授を拝命いたしました。私は香川県高松市出身（高松高校卒）で、平成2年に徳島大学医学部医学科を卒業しました。同年に徳島大学医学部麻酔学教室に入局して、徳島県立中央病院、高知市民病院の麻酔科で臨床の基礎を教わり、平成6年から徳島大学麻酔科で臨床、研究、教育を行ってきました。この間、平成10年に学位を取得し、平成13年から2年間米国ウィスコンシン医科大学麻酔科に留学をして、吸入麻酔薬による心筋保護効果の作用機序について研究を行いました。

麻酔・疼痛治療医学分野 教授 田中 克哉

私は、臨床、研究、教育はすべて患者さんの安心・安全のためにと考えて実践してきました。医学は絶えず進歩しています。麻酔科領域でも私が医者になった頃と比較すると格段に進歩しています。しかし、もうこれで十分ではありません。安全な麻酔を提供できるよう臨床研究、基礎研究を行いたいというリサーチマインドを持った質の高い麻酔科医を育て、患者さんのために貢献したいと考えています。明るく、活気ある医局にして、病院運営、地域医療に貢献できるよう努めてまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



平成26年10月1日付けで中屋豊前教授の後任として、代謝栄養学分野教授を拝命いたしました。自己紹介をかねて新任のご挨拶を申し上げます。私は大阪府出身（和泉高校卒）で、平成元年に神戸大学医学部医学科を卒業後、神戸大学附属病院・市立西脇病院（兵庫県）にて初期研修を開始し、その後神戸大学第2内科で糖尿病診療を中心に研鑽を積んでおります。その間、インスリンシグナルの研究で学位を取得し、スタンフォード大学医学部分子薬理学教室に留学する機会を頂きました。その後、神戸大

代謝栄養学分野 教授 阪上 浩

学COE研究員、神戸大学糖尿病・代謝・内分泌内科助教、近畿大学薬理学教室講師として研究、教育、臨床に従事し、平成20年より徳島大学代謝栄養学分野准教授として本学に着任しております。私は神戸大学医員の頃より一貫して糖尿病の研究を行い、現在は生活習慣病全般に焦点を当てて、肥満による病態の解明及びその栄養介入研究に取り組んでいます。今まで栄養学科が担ってきた栄養学における研究者や教育者の育成とともに、今後は臨床栄養でも世界をリードし得る指導者の育成に尽力したいと考えています。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



平成26年11月1日付けで臨床食管理学分野の教授を拝命いたしました。私は、兵庫県南あわじ市の出身で、平成4年に徳島大学医学部栄養学科を卒業しました。平成6年に大学院栄養学研究科博士前期課程（医学部生化学講座）を修了後、医学部助手（病態栄養学講座）として採用され、以後栄養学科にて教育・研究に取り組んで参りました。平成11年から2年間はテキサス大学サウスウェスタンメディカルセンターに留学する機会もいただきました。これまで、栄養学科では、臨床栄養学の講義や実習、大学

臨床食管理学分野 教授 竹谷 豊

病院でのNST活動を担当させていただくとともに、多くの卒論生や大学院生とともに研究を行い、管理栄養士や栄養学研究者の育成に携わってきました。一方で、学生生活も含めると26年間にわたり、栄養学科で育てていただいたという気持ちが強くあります。栄養学科は、昨年創設50周年を迎えるとともに医科栄養学科へと改組されました。これまでもまして、「食律生命」の理念のもと、医学を基盤とした栄養学を実践できる管理栄養士の育成を目指して教育・研究に取り組んでいきたいと思っております。引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



形成外科学分野 教授 橋本 一郎

平成26年12月1日付けで形成外科学分野を担当させていただくことになりました。私は昭和63年徳島大学を卒業し、当時は皮膚科内にあった形成外科診療班に入局致しました。前任の中西秀樹名誉教授のご指導のもと、高知赤十字病院勤務を経て、形成外科が独立した後は徳島大学形成外科学分野で研究と臨床、教育を続けて参りました。豪州メルボルン大学マイクロサージャリー研究所、セントビンセント病院に留学する機会があり、マイクロサージャリー技術を用いた tissue engineering の研究を行い、また臨床手術にも参加することで最先端の形成外科手術を学ぶこ

とができました。徳島大学では、解剖学的所見に基づいた皮弁の開発や、安全な皮弁移植のためのモニタリング手技の開発、より安全な頭頸部再建のための皮弁移植法の開発などの研究に従事して参りました。臨床においては頭頸部再建や外陰部再建、乳がん術後の再建など各科の腫瘍切除後の再建手術にとくに取り組みできました。また、創傷外科として糖尿病性足潰瘍や褥瘡、術後難治性潰瘍の治療にも力を入れてきました。これからは学部生教育を含めて形成外科全般で優秀な人材を育成することで徳島大学医学部の発展に尽力する所存です。引き続きご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。



血液・内分泌代謝内科学分野（旧：生体情報内科学分野）教授 安倍 正博

平成27年1月1日付けで生体情報内科学分野教授を拝命致しました安倍正博と申します。私は愛媛県出身で、徳島大学を1984年に卒業しました。学生時代には外国語研究会（FLS）に所属し、サイクリング（山登り）やテニスを楽しんでいました。卒業後は、内科を総合的にやってみたいと思い、生体情報内科学分野の前身であります第一内科に入局しました。生体情報内科学分野は現在血液内科と内分泌代謝内科を担当していますが、これらの診療科では患者の病態を臓器横断的に評価することが必要です。当

教室では第一内科時代からの伝統のこの全身を診るという診療スタイルを堅持し、総合内科的な考えと専門診療技能を身につけ、病態を深く考えることのできる医師の育成を心がけております。研究面では、難治疾患の治療成績の向上を目指し、新規阻害薬、抗体・免疫療法の開発や、造血、骨形成などの再生・細胞治療の基礎検討など多面的に取り組んでいます。診療の中で出会った疑問を解決するために新しいものの見方と創意工夫ができるようなチャレンジ精神の旺盛な研究グループとして当教室を発展させたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



顕微解剖学分野 教授 鶴尾 吉宏

平成27年2月1日付けで顕微解剖学分野教授に就任いたしました鶴尾吉宏と申します。私は、兵庫県洲本市出身（洲本高校卒）で、昭和57年に徳島大学医学部医学科を卒業後、本学医学部解剖学第2講座、同第1講座、さらに和歌山県立医科大学医学部解剖学第1講座において一貫して解剖学の教育と研究に携わってきました。大学時代はラグビー部に所属しておりました。卒業後、本学大学院にて、視床下部・下垂体系による神経内分泌の研究を開始し、スウェーデン、カロリンスカ研究所に留学後、ステ

ロイド代謝酵素に関する研究を進めました。平成10年から和歌山県立医科大学の教授として、肉眼および顕微解剖学を含む解剖学の全分野における教育ならびに研究の指導を行ってきました。この度、母校の徳島大学に戻り、魅力ある解剖学教育を行うことで、学生が興味を持って人体の構造が機能的な働きと密接に関連することを学び、疾患の病態を考える基盤を培ってほしいようにしたいと考えています。また、新しい発想を持って研究を進められる若い研究者を育てたいと考えます。今後もこれまでの経験を活かすべく徳島大学のために精一杯尽力する所存ですので、皆様方にはどうぞ宜しくお願い申し上げます。



疾患病理学分野（旧：環境病理学分野）教授 常山 幸一

平成27年2月1日付で、環境病理学分野教授を拝命いたしました。私は石川県出身で、平成4年に金沢大学医学部を卒業し、その後、同大学院病理学第2講座にすすみました。大学院時代にカリフォルニア大学デービス校リウマチ・アレルギー・臨床免疫学講座の Gershwin 教授のもとに留学する機会を得、肝臓を標的とする自己免疫疾患の病態機序についての研究を開始致しました。以後、一貫して肝臓病理学研究に従事しており、現在もカリフォルニア大学の volunteer clinical professor を務めております。平成14年には富山大学付属病院病理部に異動し、以後、富山で12

年間を過ごしました。ずっと雪国におりましたので、徳島の暖かい気候と温かい人柄に日々感動しております。私は「研究、診断、教育のバランスに富んだ病理医」像を理想とし、それを追求して参りました。病理学は、基礎医学であるとともに臨床医療を縁の下で支える重要な部門ではありますが、全国的に人材不足が大きな問題となっております。この徳島の地で、魅力溢れる研究、正確で信頼される病理診断、興味を引き出す学生教育を継続し、若手病理医の育成にも全力で取り組んでいく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほどを何卒宜しくお願い申し上げます。



寄附講座 地域医療人材育成分野 特任教授 川人 伸次

平成27年2月1日より地域医療人材育成分野を担当させていただいております。私は徳島県出身（城北高校卒：実家は美馬市脇町）で、平成3年に徳島大学医学部を卒業しました。大学時代はバスケットボール部に所属していましたが、ふとしたきっかけで始めた空手が本業になり、毎日の稽古とトレーニングで勉強の時間はほとんどなくなってしまいました。卒業後は徳島大学医学部麻酔学教室（現：麻酔・疼痛治療医学分野）に入局いたしました。平成7年に徳島大学大学院医学研究科博士課程を修了し、高松

赤十字病院で臨床研修した後、徳島大学で心臓麻酔を中心に臨床・研究・教育に従事して参りました。平成11年から2年間、米国ペイラー医科大学で体外循環・人工臓器の研究を行い、帰国後は周術期の呼吸・循環・代謝の機械的補助の研究を行っています。

寄附講座地域医療人材育成分野は、愛媛県四国中央病院の診療支援を中心に地域医療に貢献し、更に臨床に還元できる研究と医学生・若手医師等の教育を行い、優秀な人材育成に寄与することを目標としています。私は麻酔科医として目標達成に尽力したいと考えています。ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



寄附講座 地域医療人材育成分野 特任教授 谷 洋江

平成27年2月1日付けで地域医療人材育成分野（看護学）の特任教授に就任いたしました。私は徳島大学病院での臨床経験の後に、徳島大学において看護学の教育・研究に携わるようになりました。その間、千葉大学大学院に進み、1型糖尿病患者と家族への看護援助をテーマに研究に取り組んで参りました。徳島においても糖尿病サマーキャンプでの患児や医療系学生への教育および研究を継続しております。また地域貢献として、子どもの虐待予防のために育児期の家族の支援について研究しております。

本分野では、愛媛県からの寄附により四国中央病院において、地域医療に従事する人材育成を行うことを目的としています。当分野は麻酔科医2名、眼科医1名、看護師2名により構成されており、1つの分野に複数の職種・領域が含まれる新しい分野といえます。看護学領域では看護職の資質の向上のための、現任教員や学生実習等の実施を目指して、看護師を含む医療人材を一体的に養成するためのプログラム研究等を行って参ります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新任准教授

紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属	異動年月日	異動内容	氏名	所属
H27. 2. 1	昇任	岡久 玲子	地域看護学	H27. 3. 16	昇任	増田 清士	人類遺伝学
H27. 2. 1	昇任	堤 保夫	麻酔・疼痛治療医学	H27. 4. 1	採用	河合 慶親	食品機能学
H27. 3. 16	昇任	西田 憲生	病態生理学 (旧：ストレス制御医学)	H27. 4. 1	昇任	栗飯原賢一	血液・内分泌代謝内科学

退職者ご挨拶



医用理工学分野 教授 長 篠 博文

徳島大学で学生として6年、「教官」として30年、「教員」として11年を過ごしました。この間全く予想もしない展開の連続でした。今から考えると何もわかっていなかったのに研究者になりたいと思い、それが実現してしまいました。採用して下さった先生方のご期待に沿えなかったと、忸怩たる思いもございます。それでも何とか定年までこぎつけました。卒研配属の時には思いも寄らなかった生体情報工学や生体医工学の研究を今まで続け、電気電子工学全般を教えることにもなりました。振り返ると特に印象深いのは国際交流です。幸いにも米国で

の研究の機会をいただき、それがフロリダアトランティック大学やテキサス大学との広範な交流に結びつきました。留学中・海外研修中の学生さんたちの輝きに満ちた顔を見るのが楽しみでした。

34年を過ごした常三島から蔵本に来ると、まるで違う世界でしたが、意外にいろいろ貢献できたようにも思います。ただ残念なことに基礎は軽視される状況になり、私のような専門の者は肩身の狭い時代になってきました。今年定年を迎えることができ私は幸運でしょう。

ほんとうに多くの方々に支えていただきました。厚くお礼申し上げます。



医歯薬事務部長 米原 壽 男

還暦を迎え、いよいよ定年退職という日を間近に控えながら、また不惑の歳四十も疾うに過ぎたというこの期に及んで、何かしら達成感の無さを感じる今日この頃です。

昨年十月に小中学校校合同の還暦同窓会が開催され、それに出席した折、昔の仲間達の人生それぞれを見聞きしながら、社会的地位には関わらず、目標を持って活躍している者の生気というものを、強く肌で感じ圧倒されました。

私も、まだまだこれからという強い気持ちを持ち、今後の目標を見据えながら、次のステップへと進んで行きたいものだと思います。

徳島大学に在職したのは、五年間という短い期間でしたが、公私ともに多くの方々と、親しく接することが出来ました。いろいろお世話になり、有り難うございました。

徳島大学の今後ますますの発展と、皆様のご健勝を祈念しつつ、名残は尽きませんが、退職のご挨拶と致します。

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

岡 奨 学 賞

林 裕 晃 (医用理工学分野 助教)

向 井 理 恵 (食品機能学分野 助教)

* 医学部、疾患酵素学研究センター、疾患プロテオゲノム研究センターにおいて、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

■ 第250回徳島医学会学術集会(平成27年2月1日)において、第34回徳島医学会賞及び第13回若手奨励賞の受賞者が選考されました。

徳島医学会賞

大 学

泉 泰 輔 (徳島大学大学院HBS 研究部 微生物病原学分野)
「FRET原理を応用したレトロウイルス可視化技術の樹立及び本技術を利用した抗レトロウイルス薬の開発」

医 師 会

小 幡 史 明 (那賀町国民健康保険 木頭診療所)
「医療過疎地域での急性期脳梗塞患者に対する“drip and ship”法の検討」

若手奨励賞

森 本 潤 (徳島県立中央病院 医学教育センター)
「同時期に1型糖尿病を発症し多腺性自己免疫症候群Ⅲと診断し得た高齢同胞症例」

大 櫛 祐 一 郎 (徳島県立中央病院 医学教育センター)
「腹部鈍的外傷後、遅発性に生じた横行結腸間膜裂孔ヘルニアの1例」

医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞

KALUBI BUKASA
(教育支援センター 講師)

保健学優秀教育賞

橋 本 浩 子
(子どもの保健・看護学分野 助教)

栄養学優秀教育賞

近 藤 茂 忠
(生体栄養学分野 准教授)

* 医学科、栄養学科、保健学科の教育及び学生指導に貢献した人を表彰する賞です。

Best Teacher of the Year 2014 賞

医 学 科

小 川 博 久
(環境病理学分野 講師)

桑 野 由 紀
(ストレス制御医学分野 助教)

西 田 憲 生
(ストレス制御医学分野 助教)

医科栄養学科

辰 巳 佐 和 子
(分子栄養学分野 助教)

保健学科

細 井 英 司
(細胞・免疫解析学分野 教授)

* Best Teacher of the Year 賞は学生の投票で決まる賞です。
(注) 分野名は選考時のものです。



医学部優秀教育賞・Best Teacher of the Year 2014 受賞者
後列左から：細井英司、西田憲生、小川博久、橋本浩子、KALUBI BUKASA
前列左から：辰巳佐和子、安友医学科長、荷原医学部長、宮本医科栄養学科長、桑野由紀 (敬称略)

医学部サッカー部 全日本チャンピオンに！

医学部サッカー部は、平成26年11月23日、11月24日に熊本で開催された第48回全日本医科学生体育大会王座決定戦サッカー部門で優勝し、初の全国制覇を達成しました。

8月に行われた西日本医科学生総合体育大会(西医体)優勝校として臨んだ今大会、初戦の熊本大学戦は開始早々先制を許しましたが、焦らず自分たちのサッカーを続け、後半半ばに同点に、さらに終了間際にコーナーキックから得点を挙げ、劇的な逆転勝利を収めました。

迎えた決勝戦は、東日本チャンピオンの千葉大学との試合となりました。前半は押し込まれる展開で我慢が続きましたが、後半は徳島大学自慢の攻撃陣が爆発し、最終スコア4-1で勝利。

悲願の全国制覇を達成しました。

医学部サッカー部は現在、徳島県国体選抜選手を2人擁しており、「医学部という枠組みにとらわれず、より高いレベルに到達する」ということを意識しながら日々練習に励んでいます。来年度は、日本最大のサッカートーナメントである天皇杯・全日本サッカー選手権大会に、徳島県代表として参加することを目標としています。また、平成28年には西日本医科学生総合体育大会が徳島大学主管で行われます。40年に一度の地元開催での優勝を目指し、今後も練習に励んでいきますので、引き続きのご声援よろしくお願いたします。



◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

中 田 賞

第 61 回医学科卒業生(平成 27 年 3 月卒業)
原 倫 世

卒業という人生の門出に、このような名誉ある中田賞を頂くことができまして、励みとなりますとともに、身の引き締まる思いです。熱心にご指導して下さいました先生方、様々な場面でサポートして頂いた学務課や図書館職員の方々、6年間苦楽を共にした友人、そして25年間どんなときも傍で支え励まし惜しみない協力をしてくれた両親に、心より感謝しております。今後も、この賞に恥じぬよう日々精進して参ります。

看護学専攻賞

第 10 回看護学専攻卒業生(平成 27 年 3 月卒業)
佐 藤 浩 子

この度は、名誉ある看護学専攻賞をいただき大変光栄に存じます。社会人として入学し、家庭生活と両立しながら、卒業を迎えることができました。この4年間、講義・実習・研究、また、それ以外の場面で常に学生に寄り添い、指導や面談を重ねて下さった先生方をはじめ、支えてくださった全ての皆様に心より感謝しております。この賞を励みとし、今後も日々精進してまいります。

す だ ち 賞

第 10 回検査技術科学専攻卒業生(平成 27 年 3 月卒業)
川 西 智 子

この度は、すだち賞を頂き大変光栄に思います。このような名誉ある賞を頂いたのも、4年間温かくご指導して下さった先生方、支えてくれた家族のおかげです。心より感謝いたします。今後も、努力することを怠らず、自分自身を成長させ、臨床検査技師として医療に貢献できるよう日々精進して参ります。本当にありがとうございました。

児 玉 賞

第 48 回栄養学科卒業生(平成 27 年 3 月卒業)
檜 崎 遥 子

この度は名誉ある児玉賞をいただき、大変光栄に存じます。これもひとえに先生方をはじめ、友人、家族、いつも支えてくださった方々のおかげだと心から感謝致します。大学生活は、温かい方々に恵まれ、学びたいことが学べるという何とも幸せな環境で、貴重な学びと出会いにあふれた4年間でした。今後も常に感謝の気持ちと向上心を持ち、一瞬一瞬を大切に、精進して参ります。本当にありがとうございました。

放射線技術科学専攻賞

第 10 回放射線技術科学専攻卒業生(平成 27 年 3 月卒業)
家 入 美 奈 子

この度は名誉ある放射線技術科学専攻賞をいただき大変光栄に感じております。4年間支えてくださった先生方や家族、友人に心から感謝致します。今後は徳島大学で学んだことを活かし、放射線技師として日々努力してまいります。

第 10 回放射線技術科学専攻卒業生(平成 27 年 3 月卒業)
松 本 晃 範

この度は、名誉ある放射線技術科学専攻賞を頂き、大変光栄に感じております。4年間温かくご指導して下さった先生方をはじめ、共に切磋琢磨した友人たちや支えてくれた家族のおかげで充実した大学生活を送ることができ、深く感謝しております。この受賞を励みとし、放射線技師として医療の現場に貢献して参りたいと思います。



医学部優秀学生賞

医科学教育部博士課程3年次：IRENE LORINDA INDALAO
先端医療研究会：秋山晋一郎
平尾麻衣子
高橋甲介
保健学科看護学専攻4年次：前田泰志

保健学科放射線技術科学専攻3年次：前畑伊採
保健学科検査技術科学専攻4年次：片山寿貴
保健学科放射線技術科学専攻4年次：沖野啓樹
保健科学教育部看護学領域2年次：中窪萌子
※各種活動等において顕著な功績があった学生又は学生団体を表彰する賞です。(注：年次は選考時のものです。)



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。
(平成26年3月26日)

- 認定評価機関
独立行政法人大学評価・学位授与機構
- 認証期間 7年間
(平成26年4月1日～平成33年3月31日)

編集後記



日本のサッカーは過渡期を迎えている。プロができ、スタジアムは整い、選手育成システムも一通りできあがり、いわゆる体制は整った。でもワールドカップで勝つことはできなかった。圧倒的な差があったように見えた。何が良くなかったのか、関係者はもちろんのこと一般の人たちもそれなりの自分の意見を持っているが、誰も明快な答えを見いだせないように見える。一方、20年ほど前は大人気であったが、現在はその人気は落ち込んでしまったラグビーについては、既存概念から見直し、練習方法などに大幅な改革を行った結果、日本ラグビーの実力は急スピードであがりつつあることを知った。「ゼロからスタートする」、平易ではあるが私の好きな言葉の一つである。新入生にも贈りたい。(安友康二)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
広報委員 森口博基(委員長)、安友康二、赤池雅史、西村匡司、酒井 徹、大塚秀樹、米原壽男、佐藤浩彦、進藤奈都美、松下映美

本誌へのご意見・ご要望は、(医学部総務課総務係) E-mail: isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp まで
お願いします。なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9118 Fax: 088-633-9028 URL: http://www.tokushima-u.ac.jp/med/